

令和2年1月27日

市政記者クラブ 様

東山総合公園
植物園 大橋・早瀬
電話 782-2111
(休園日 782-2416)

(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センターと同時発表)

絶滅危惧種「オガサワラグワ」苗木の受渡し式を行います

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センターが実施している「オガサワラグワ里親計画」に参加することとなり、絶滅危惧種「オガサワラグワ」の苗木を受入れ、保存・展示を行います。つきましては、受渡し式を下記のように開催しますので、お知らせします。

記

1 開催日時

令和2年1月31日(金) 13時30分～13時45分

2 開催場所

植物園温室後館 サガロ温室 ※裏面 案内図参照

3 出席者

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター遺伝資源部探索収集課課長、東山植物園長

4 内容 ※裏面 写真参照

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センターから名古屋市東山動植物園植物園へのオガサワラグワ苗木の受渡し

【参考】

■オガサワラグワについて

小笠原諸島だけに生育するクワ属の樹木。かつては小笠原の主要な森林構成樹種であったが、明治の開拓期にその多くが伐採され個体数が激減してしまい、現在は母島、父島、弟島にわずかに百数十本の成木が残されるのみとなっている。残された個体も移入種（人の手で持ち込まれた植物）の影響等で危機的な状況にあり、現在では絶滅危惧種に指定されている。

茨城県日立市にある国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター（以下、林木育種センター）では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図ること等を目的とした林木ジーンバンク事業を実施している。この事業の一環として、組織培養等のクローン増殖技術を用いたオガサワラグワの保存（生息域外保存；本来の生息場所以外の場所で保存すること）を進めている。現在、既に原木が枯死してしまった個体を含む約100クローンを保存するに至っている。

■オガサワラグワ里親計画について

林木育種センター、日本植物園協会及び小笠原村とで覚書に基づき実施している。日本植物園協会の会員である各地の植物園等が里親となってオガサワラグワの保存を行うことで、オガサワラグワが分散保存され保存がより確実なものとなるとともに、各地の植物園等で展示することにより、オガサワラグワを含めた小笠原の自然について、多くの方々に見て、知って、理解を深めてもらうことを目指す。本計画で受渡し・保存・展示されるのは、上述の組織培養技術により保存されているオガサワラグワのクローンである。受渡しは当園で7番目で中部地方では最初となります。

【案内図】



【参考写真】

オガサワラグワ原木



組織培養によるオガサワラグワの保存



受渡しする苗木

